

英語力の指導改善事業

平成24年度予算額 176百万円

グローバル人材育成戦略(H24.6.4):豊かな語学力・コミュニケーション能力等を身に付けた人材の育成

新学習指導要領の全面実施(高:H25~年次進行):授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は生徒の理解の程度に応じた**英語を用いて行うことを基本**とする

国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策(H23. 6. 30):教育委員会は、地域の英語教育の拠点となる学校の形成、拠点校の成果の他校への普及等を進める。国は必要な支援を行う。

英語力を強化する指導改善の取組 97百万円

- ・各県教育委員会が英語教育改善プランを策定
- ・各県に拠点校を設け、新学習指導要領の着実な実施を促進

※拠点校は全国123校(中:13校、高:110校)(東京、大阪を除く)

【英語教育改善プランにおける取組内容】

- 拠点校の成果の普及(中核となる英語担当教員や管理職対象の研修会実施等)
- 拠点校における取組
 - ・教室をコミュニケーションの場とするための英語を用いた授業の実施
 - ・文法解説・訳読に偏った授業からの脱却
 - ・公開授業、授業研究、英語教育改善セミナー
 - ・外部有識者による指導助言、研究会の実施→授業改善
- 各県で英語教育改善に向けたPDCAサイクルを構築
国はその開始段階を支援

成果の
検証

指導改善に活用

外部検定試験の活用による英語力の検証 79百万円

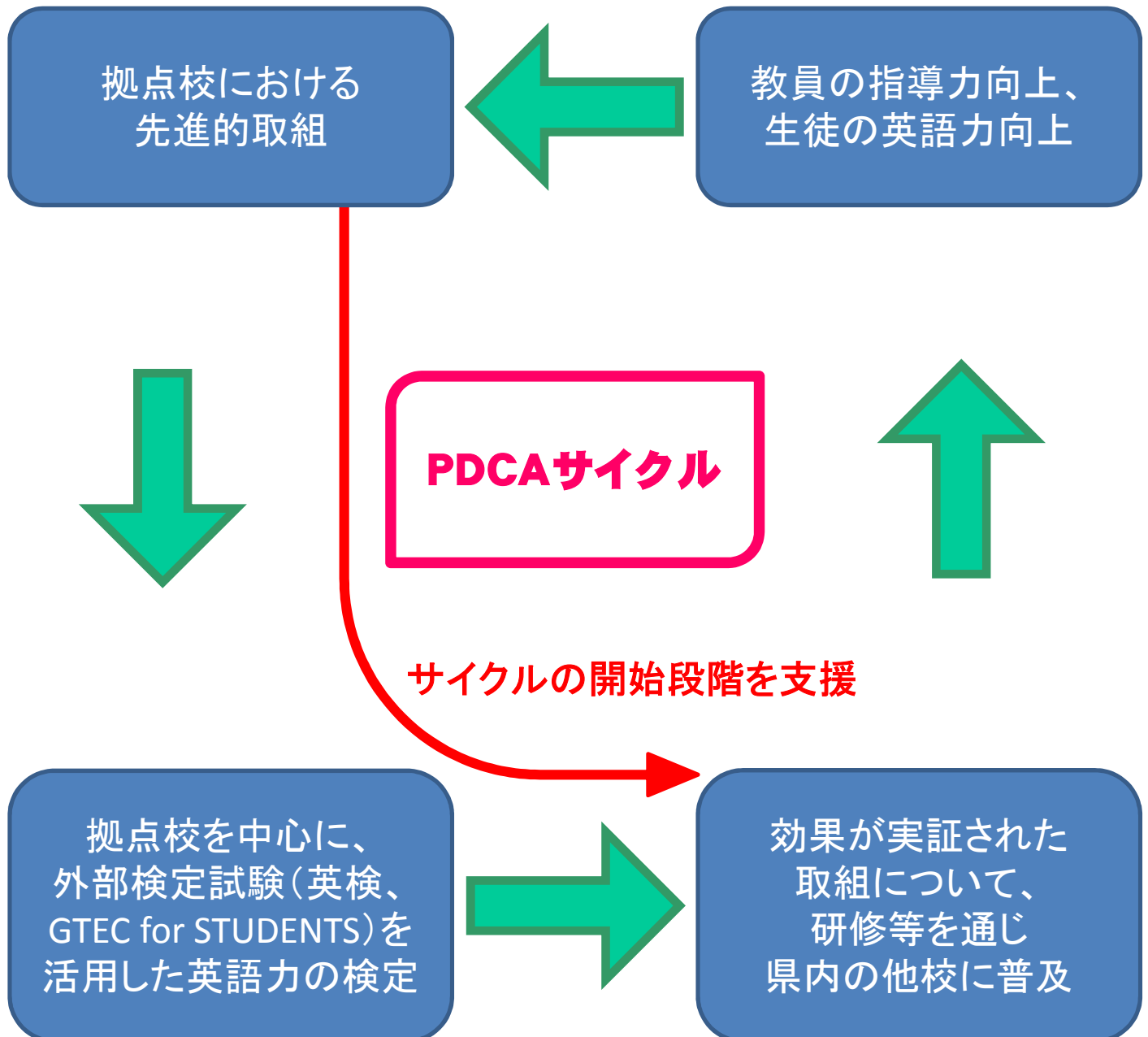
- 外部検定試験を活用し、拠点校を中心に我が国の生徒の英語力について把握・分析を行い、指導改善に活かすことで全国的な取組を推進。

※対象生徒数:約5.2万人

- ・調査対象となる学校は218校(うち拠点校は110校)
- ・英検やGTEC for STUDENTSをベースにした外部検定試験を活用し、生徒の英語力を把握・検証
- ・結果を集計・分析し、指導改善に活かす

教員の指導力・生徒の英語によるコミュニケーション能力向上

英語力の指導改善事業のイメージ



生徒・教員に求められる英語力について

◆生徒

【中学校卒業段階】

初歩的な英語を聞いたり読んだりして話し手や書き手の意向などを理解したり、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話したり書いたりすることができる。

(英検であれば3級程度)

【高校卒業段階】

英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりすることができる。

(英検であれば準2級～2級程度)

◆教員

生徒の英語によるコミュニケーション能力を育成するため、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とすることができる。

(英検準一級、TOEFL (iBT) 80点、TOEIC730点程度以上)

■今後の達成目標

	H24 (実績)		H29 (目標)
中学生	31.2%	⇒	50.0%
高校生	31.0%	⇒	50.0%
中学校教員	27.7%	⇒	50.0%
高校教員	52.3%	⇒	75.0%

～英語力の指導改善事業を活用した取組事例(北海道)～

指導や評価改善のための研修・研究開発の取組

(1) 北海道英語教育推進会議による事業の評価・検証

- ・年間3回
- ・有識者10名による取組の成果・課題の検証、今後の方向性等の検討

※(2) 拠点校7校(倶知安、寿都、豊富、網走南ヶ丘、弟子屈、滝川西、えりも)での公開授業及び研究協議

- ・年間2回又は3回
- ・運営指導委員による継続指導
- ・スーパーティーチャーによる継続指導
- ・指導主事による助言

参加英語教員数: 延べ365名

(◆道中高英語教員総数: 2055名)

内訳: 倶知安(57名)、寿都(44名)、豊富(44名)、網走南ヶ丘(54名)、弟子屈(33名)、滝川西(65名)、えりも(68名)



※(2) 講師謝金(¥192,166)

委員等旅費(¥994,440) を本事業により支援



(3) 北海道レイター(評価者)養成研修会

- ・6月27日、10月12日、2月8日の3日間
- ・外部検定試験の活用による英語力の検証事業説明
- ・英語教育を専門とする大学教員等によるワークショップ
- ・英語で授業を行うための指導法に関するワークショップ
- ・can-doリストの作成ワークショップ など

参加英語教員数: 延べ216名



(4) グローバル人材を育成するためのプログラム開発

- ・推進校4校、協力校4校指定
- ・スピーキングテスト・ライティングテストの開発、英語コンテストの実施、can-doリストの作成、海外の大学・高校との交流等

児童・生徒の英語使用機会の拡充

(1) 北海道イングリッシュキャンプ

- ・道内6か所の少年自然の家
- ・8泊11日(6月、夏季・冬季休業中の3回に分けて実施)
- ・参加人数285名(小・中学校生、高校生)
- ・外部検定試験、地域の特色を生かした体験活動、プレゼンテーションなど



(2) 北海道スーパーイングリッシュキャンプ“The Camp”

- ・道立青年の家
- ・7泊8日(夏季・冬季休業中の2回に分けて実施)
- ・参加人数25名(英検2級以上の英語力を有する生徒)
- ・大学教員等によるワークショップやディベート、ICTを活用した海外生徒との交流など



〈平成25年度の目標〉

- ◆ 指導・評価の改善に資する研修を充実させていく。
- ペアワーク・グループワーク等の1単位時間に占める割合 50%
- スピーキングテスト 3回
- 研修参加教員数延べ500人

→ 運営費等(¥11,665,000) は、道費負担

～英語力の指導改善事業を活用した取組事例(富山県)～

とやまの高校グローバル人材育成促進事業

※(1) 拠点校4校(魚津高校、富山商業高校、高岡高校、砺波高校)での実践

- ・5月 4校の担当者を集め連絡協議会を実施
 - ①can-do リストの作成
 - ②英語での指導法の研究 など
- ・7月 各校で第1回運営指導委員会の実施
参加者 運営指導委員、各校英語教員、管理職
- ・8月 英語教員研修会で研究報告
- ・11～12月 各校で公開授業及び協議会の実施
参加英語教員数:延べ156名
(◆県高校英語教員総数:222名)
内訳:魚津(48名)、富商(37名)、高岡(44名)、砺波(27名)
- ・研究報告書を県立学校のすべての英語教員に配布
- ・授業実践DVDをすべての県立高校に配布
- ・第2回運営指導委員会の実施



- ※(1) 講師謝金、旅費等(¥183,913)
研究報告書作成費(¥211,995)
拠点校授業実践DVD 作成費(¥495,000)
- ※(2) 講師謝金、旅費、会場費等(¥382,141) を本事業により支援

◆求められる英語力(英検準1級相当)を有する
中学校教員の割合 44.0%(全国平均 27.7%)
高校教員の割合 81.5%(全国平均 52.3%) [H24]

全国平均を大きく上回る

※(2) 英語教員研修会

- ・5年ですべての中・高英語教員が参加(各年度約100名)
- ・今年度の実績
7月30日、8月2日、8月3日の3日間
富山県総合運動公園で実施
参加英語教員数92名



内容 英語教育を専門とする大学教員等によるワークショップ
英語で授業を行うための指導法に関するワークショップ
can-doリストの作成ワークショップ など

(3) 生徒プレゼンテーションコンテスト等

- ・高校生英語ディベート大会
9月30日 富山大学で実施 参加生徒数:約60名(13チーム)
- ・プレゼンテーションコンテスト
10月27日 富山市民プラザで実施 参加生徒数:180名

高校生とやま英語表現ハンドブック作成事業

趣旨 国際社会の中で、将来の富山や日本を担う高校生を、真の国際人に育てるため、とやまの文化、自然、観光や産業などを、英語で表現する冊子を作成し、全高校の英語科授業や国際交流の場で活用する。

内容 本県の自然・文化・産業・歴史等をテーマ毎にまとめたもの
※項目の例 自然と人間との共生、災害の克服、住みよさ全国トップクラス、越中万葉の紹介、合掌集落、富山の年中行事、世界に飛躍した人々など

配布先 県立高校、英語教員・ALT、関係機関等

- 活用方法**
- ①英語科の授業などで活用
 - ・「伝統芸能」や「信仰」など、関連ある分野の補助資料として活用
 - ・コミュニケーション技術の習得や練習の際の、補助教材として活用
 - ②部活動や国際理解教育など特別活動で活用
 - ・ALTや富山を訪れた外国人に、富山のことを伝える など



〈平成25年度の目標〉

- ◆can-doリストやハンドブック等を活用し、指導・評価の改善に資する研修を充実させていく。
- ペアワーク・グループワーク等の1単位時間に占める割合 50%
- スピーキングテスト 2回以上

→製本費等(¥6490,000)は、別途負担